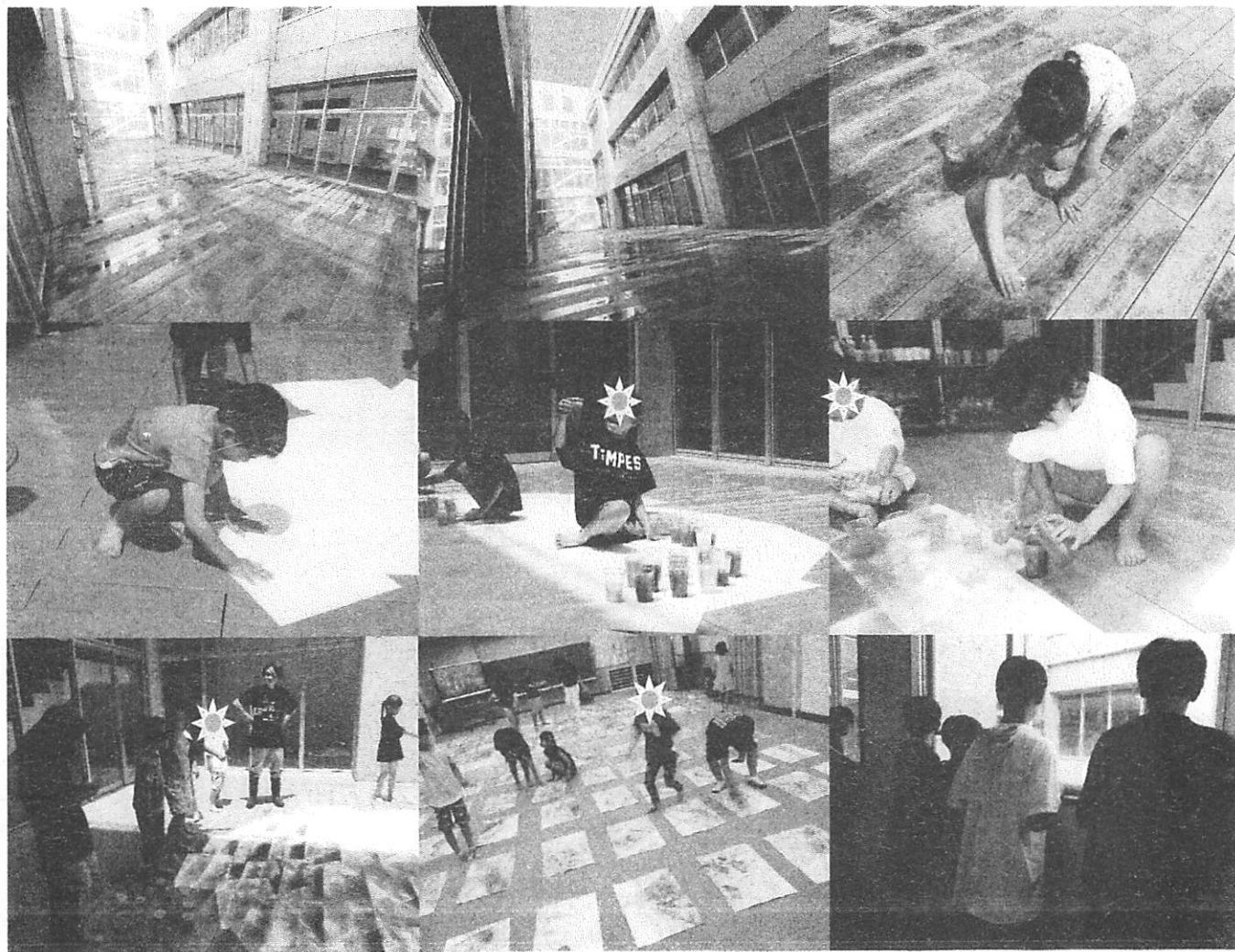


「学校内にある特別な場所を活用した感性広がる活動展開」
～感性広がる！朝陽小 夢のライトコートプロジェクト～



八街市立朝陽小学校 佐藤 誠一郎

令和7年8月22日（金）

成田市立下総みどり学園

1 研究主題

「学校内にある特別な場所を活用した感性広がる活動展開」
～感性広がる！朝陽小 夢のライトコートプロジェクト～

2 主題設定の理由

本校は全校児童284名、そのうち特別支援学級に在籍する児童は48名である。本校の校舎の中心にはライトコートという中庭があり、樹脂製の床板に吹き抜けの天井となっており、四方がガラス張りになっていて、どこからでも様子が確認できる。また、朝陽小学校の全校児童が毎日目にすることになる場所であり、陽の光が射しこみながら風が吹き抜け、大変雰囲気の良い情緒あふれる空間であるが、普段の学校生活の中で誰も気に掛けることはなく、また教育活動の中で活用される様子はなかった。

本学級は特別支援学級の知的障害特別支援学級で、ライトコートの出入り口となる1階に唯一配置されている学級である。在籍している児童は、コロナ禍の活動制限の影響だけでなく、生活能力不足や経験不足の様子がある児童が多く、図画工作科の学習活動の中でもなかなか想像力や表現力が広がらない様子がある。また、それゆえにそれぞれに個別で支援をしながら制作活動をする必要があり、児童が主体的に活動することが難しい。

そこで、開放的で清掃の容易なライトコートを活用して、どんな児童でも取り組みやすく、遠慮なく大胆に、全身で直感的に楽しめる造形活動ができれば、児童にとって特別な体験となり、主体的に活動することに繋がるのではないかと考えた。また、どこからでも活動の様子がわかるライトコートで行うことで、それを見た他の学年や学級の児童が活動に関心を示し、活動が広がっていくのではないかと考えた。結果として、今まで教育的意義や価値をもてなかったライトコートが、感性を育むアートな空間へと生まれ変わり、児童の情操教育に大きく貢献できるのではないかと考え、主題を設定するに至った。

3 児童の実態

授業展開する知的学級の児童は2学級、1年2名、2年4名、3年1名、4年1名、5年2名、6年3名の計13名である。学年の差や個々の能力の差もあり、児童の実態に応じて小集団で学習したり、集団での生活能力を高められるように13名全員での活動や、交流学习に参加したりしている。情緒や能力の発達にアンバランスが見られ、行動面や心理面、認知能力等に様々な課題を抱えているため、生活能力が低く、集団での活動に困難がある児童が多い。学習活動の中でも多くの課題があり、図画工作科の学習では、個別に支援する必要がある児童が多く、支援なしでは最後まで活動できなかったり、途中で何をすればいいのかわからず固まってしまう児童がいる。

4 仮説

仮説1 解放感のある特別な場所で、全身で直感的に楽しめて、どんな児童でも取り組みやすい造形活動ができれば、児童が主体的に活動できるようになるだろう。

手だて①汚れることを気にせず思い切って活動できるように、事前に汚れてもよい服を用意させ、汚れても洗い流せるライトコートで活動する。

手立て②活動の場に対する思いを高めて、より主体的に活動できるように、場の清掃や準備も児童と行う。

手立て③特別支援学級の児童でも楽しく活動できるように、低学年でも取り組めて、高学年でも楽しさや学びのある活動をする。

手だて④自己存在感や自己有用感を高め、主体的に活動できるように、活動している姿や成果を多くの人の目に触れるようにする。

手だて⑤本授業展開では、色水作りの活動に際して、こぼした絵の具等からも色の混ざり方や変化のよさに気付けるように、画用紙を敷き詰める。

手立て⑥児童全員が自然に交流・協力できる状況になるように、活動の場を一つで共有する。

仮説2 特別な場所で主体的に造形活動が行われている姿やダイナミックな作品を見ることで、学校全体場所への意識や、活動への関心や意欲が高まるだろう。

手だて①今まで目にしていたも気にかけていなかったライトコートを、活動の場として有用なことに気付かせるために、その場で様々な造形活動を展開する。

手だて②自分たちも関わり、活動がしたいという関心や意欲を刺激できるように、ライトコートで活動している児童が主体的に活動する姿や、活動後の成果が見えるようにする。

手立て③全学年の児童が在籍している知的障害特別支援学級を起点とすることで、より全校の児童が親しみをもてるようにする。

手だて④児童だけでなく教員含めた大人も関わりたいと思えるように、ライトコートでの様々な活動展開を提案、周知し、広げていく。

手立て⑤活動に対する「参画感」を実感できるように、興味をもった人達からも積極的に意見や希望を聴き取り、活動を発展させていく。

5 研究の実践

(1) 題材名「ふたば イロいろ実験所」

(2) 題材について

本題材は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容に基づいて設定した。

A 表現

(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人口の材料の形や色などを基に、造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。

(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形遊びする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

本題材は、絵の具やインクを使って色水をつくりながら、さまざまな色のよさや面白さに気づき、試したり工夫したりしながら色水で遊ぶことを楽しむ造形遊びの題材である。また、色水をつくるだけでなく、色水を混ぜたり、それを並べたり、こぼれた色水が意図せず混ざり合う中で、自分の好きな色を見つけたり色の美しさや面白さを感じたりしながら、思い付いた活動や表し方を自分なりに楽しむことで、想像力や表現力を育むことをねらいとしている。

(3) 題材の目標

- 色水をつくったり並べたりすることを通して、混ぜた時や並べた時、こぼした後の形や色に気づき、いろいろな色の色水をつくったり並べたり、こぼしたりするなど、活動を工夫できる

(知識及び技能)

- つくった色水や、並べ方、こぼれて混ざり合った色や形を基に造形的な活動を思い付き、どのように活動するか考え、自分や友達の活動の面白さや楽しさ、表し方などについて感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げることができる。

(思考力、判断力、表現力)

- 色水をつくったり並べたりこぼしたりすることに関心を持ち、色水で思い付いたことを表す学習活動に楽しく取り組むことができる。

(学びに向かう力、人間性等)

(4) 題材の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 色水をつくったり並べたりすることを通して混ぜた時や並べた時、こぼした後の形や色に気付いている。 - いろいろな色の色水をつくったり並べたり、こぼしたりするなど、活動を工夫してつくっている。	- つくった色水や、並べ方、こぼれて混ざり合った色や形を基に造形的な活動を思い付き、どのように活動するか考えている。 - 自分や友達の活動の面白さや楽しさ、表し方などについて感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げている。	色水をつくったり並べたりこぼしたりすることに関心を持ち、色水で思い付いたことを表す学習活動に楽しく取り組むことができる。

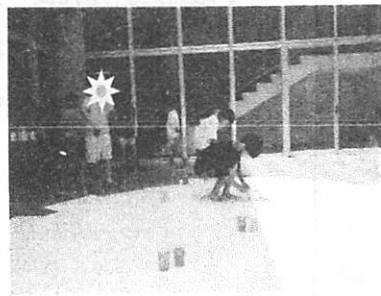
(5) 指導と評価の計画

時配	ねらい・学習活動	評価基準（観点）
1 本 時	色水をつくりながら、さまざまな色のよさや面白さに気づき、試したり工夫したりしながら色水で遊ぶことを楽しむ。	- 色水をつくったり並べたりすることを通して混ぜた時や並べた時、こぼした後の形や色に気付いている。 (知識・技能) - いろいろな色の色水をつくったり並べたり、こぼしたりするなど、活動を工夫してつくっている。 (知識・技能) - 色水をつくったり並べたりこぼしたりすることに関心を持ち、色水で思い付いたことを表す学習活動に楽しく取り組むことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

2	・前時で床にこぼれて混ざった色水が染みついた画用紙を並べて、一番好きな色と形の画用紙を選んだり、友達のお気に入りで見比べたりして、見方や感じ方を広げる。	・自分や友達の活動の面白さや楽しさ、表し方などについて感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げている。 (思考・判断・表現)
---	--	--

(6) 本時の指導 (1/2)

展開

時配	学習内容と学習活動	指導の手立てと支援内容
5	1 教室でめあてと流れを確認し、本時の見通しをもつ。	・児童が安心して活動できるように、一時間の授業の流れを簡単に図で説明し、見通しとめあてをもって活動できるようにする。
5	2 ライトコートに移動し画用紙を並べて活動の場を作る。	・本授業展開では、色水作りの活動に際して、こぼした絵の具等からも色の混ざり方や変化のよさに気付けるように、画用紙を敷き詰める。 ・大量の画用紙が一枚の紙になるように上から散水ホースで水を撒く。
		
5	3 コップに水を入れて画用紙の上に並べる。	・その後の活動で、児童が自由に活動できるように、教師もいくつか水入りコップをランダムな位置に配置しておく。
		

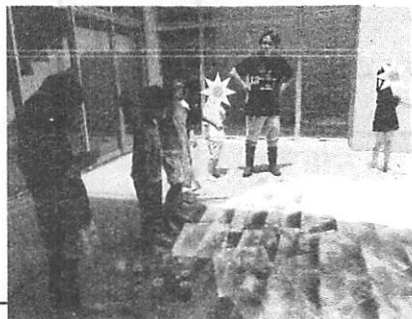
- 20 4 教師からそれぞれ赤・青・黄の絵の具の入ったコップをもらい、画用紙の上に並べた水入りコップに入れたり、混ぜたりして活動する。



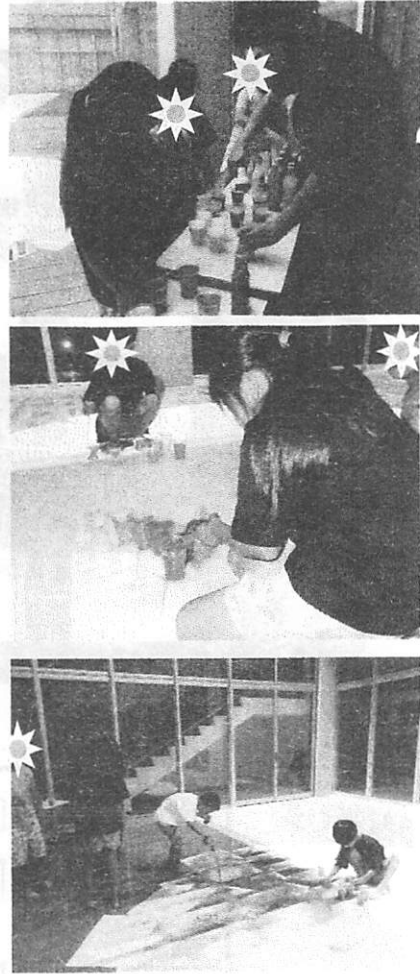
- 5 5 各自一番気に入った色をペットボトルに詰める。



- 5 6 振り返り・次時予告



- ・活動の幅に広がりが出るように、事前にこぼしても洗うことが可能で問題ないことを伝えておく。



- ・手先が器用ではない児童は補助する。

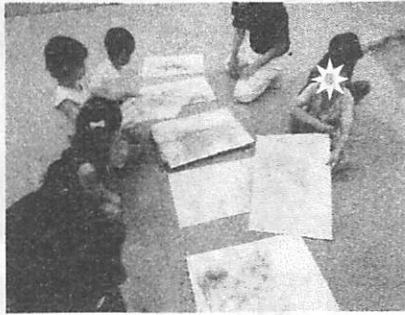
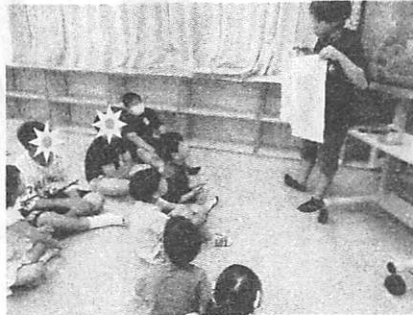


- ・自分のお気に入りの色水について振り返りと共有をした後に、活動した後の画用紙を見せ、様々な色の変化や表情に注目させる。

6 その後の活動

前時で床にこぼれて混ざった色水が染みついた画用紙を並べて、一番好きな色と形の画用紙を選んだり、友達のお気に入りで見比べたりして、見方や感じ方を広げる鑑賞活動を展開した。

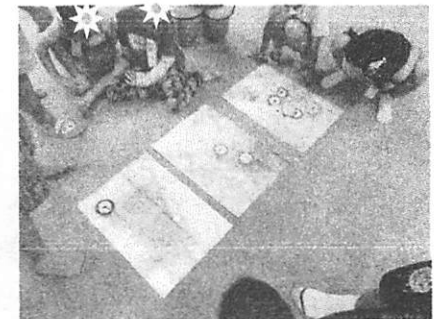
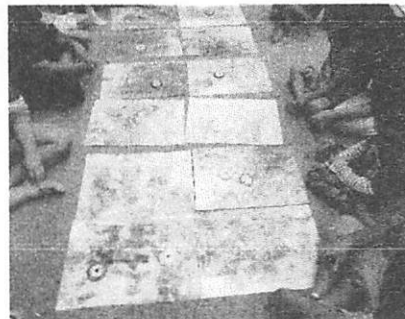
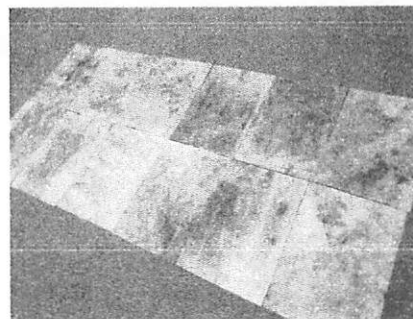
前時の振り返りの後、偶然出来上がった様々な色や形が染みついた画用紙を、児童達で並べる。



前時の1時間で出来上がった画用紙は50枚以上にもなる。色水がこぼれたことで出来上がった複雑で鮮やかな色や、紙が重なった箇所からできる形など、同じものは一つとしてない。子供たちは思い思いにじっくりと作品を見比べながら、お気に入りの一枚を探す。

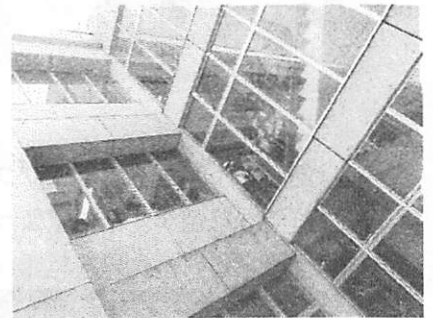


授業後半には、各々のお気に入りの一枚が並び、そこからさらにそれぞれのよさについて話しあう。友達を選んだ作品から1枚を選んでみると意外な結果に…。



7 他学級、他学年の反応

授業展開中や、授業後の休み時間には、通りすがりの児童の多くが足を止め、ライトコート覗き込んでいた。中にはライトコートや教室に入ってきて「何してるの?」や「やりたい」、「いいなあ」「僕も双葉学級に入りたい」など、活動に興味・関心をもった児童が複数いた。



その後「今後ライトコートが変わっていくとすれば、どうなって欲しいか」という旨のアンケート用紙を配付したところ、全学級の児童から多くの回答があり、ライトコートの場所に対する意識の変化や、活動への興味関心の高まりが感じられた。

朝陽小 「夢のライトコート プロジェクト」 アンケート



クラス 年 組 名前

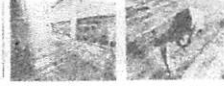
みなさんこんにちは。今度この学校にいます双葉学級の教室に入ってきてよく見てあげてください。みんなが毎日授業中ですが、今度で終わるまで、使えなくなってしまう。そこで、みんなが夢のライトコートを作りたいと思っています。皆さんも考えてください。

・ライトコートは教室の入り口にあるようにしたい。
もしもライトコートに物が置かれるとしたら、どんなものがいいかな。みんなが考えたものをここに書いてください。
お返事をさせていただきます。



・お返事です。ライトコートの場所と入りに変更して、みんなが使いやすいようにしたいと思います。みんなの意見が大切なので、みんなも考えてください。

朝陽小 「夢のライトコート プロジェクト」 アンケート



クラス 年 組 名前

みなさんこんにちは。今度この学校にいます双葉学級の教室に入ってきてよく見てあげてください。みんなが毎日授業中ですが、今度で終わるまで、使えなくなってしまう。そこで、みんなが夢のライトコートを作りたいと思っています。皆さんも考えてください。

・ライトコートは教室の入り口にあるようにしたい。
もしもライトコートに物が置かれるとしたら、どんなものがいいかな。みんなが考えたものをここに書いてください。
お返事をさせていただきます。



・お返事です。ライトコートの場所と入りに変更して、みんなが使いやすいようにしたいと思います。みんなの意見が大切なので、みんなも考えてください。

8 成果と課題

【成果】

仮説1について

- ・ 開放的なライトコートでダイナミックに活動したことで、特別感のある楽しい活動となり、児童たちが最初から最後まで主体的に活動することができた。
- ・ 児童が色が混ざり合った時の様々な色の変化を感じ取り、各々自分なりの思いや考えで活動を工夫していた。特に、赤と青が混ざってできる紫の色の变化に惹かれる児童が多くいたことが興味深く、混ざり合う色のよさや美しさを味わっている様子が見られた。
- ・ その後の鑑賞活動では、児童が並べられた画用紙をじっくり見ながら、色や形の違いやよさを見比べて、自分なりの見方や考え方を働かせてお気に入りを選んでいった。特に、いつも主体的に活動するのが難しい児童が選んだ画用紙が、他の児童からも称賛され、一番人気になったのは興味深かった。
- ・ 楽しく活動ができる体験をさせたことで、児童が「また色水作りをやりたい」「ライトコートで図工やりたい」と頻繁に発言するようになった。特に図工が苦手でいつも「やりたくない」と話していた児童が「またやりたい」と積極的に発言していた。
- ・ 個人面談時に保護者の方から、「帰宅後に、児童が自宅の流しに紙を敷いて色水遊びをしていて驚いた」という話があり、それを受けて学級の児童に確認したところさらに3名の児童が家で似たようなことをしていたらしく、児童が主体的に混色の変化の面白さや楽しさを味わおうとしていることが確認できた。

仮説2について

- ・ 事前準備で行った清掃から、授業展開中や授業後の作品に対して興味を示した他学級の児童が多く、休み時間中に「自分もやらせて欲しい」と双葉学級に訪れる児童も複数いたことから、ライトコートへの意識や、活動への興味関心が高まっているのが感じられた。
- ・ 本授業後に、ライトコートが活動の場として認知され、2学年の図工の授業でライトコートを使用して活動していた。
- ・ 4学年担任より、どんな児童でも取り組める紫陽花をテーマにした作品作りをしたいと相談があり本授業展開を元に、作品のベース作りをライトコートで行う予定。
- ・ 6学年の児童の多くから「自分たちも何かやりたい」と声が上がり、2学期以降に清掃と造形活動に取り組みたいとの申し出があった。
- ・ 「今後どのようにライトコートが変わっていけばよいか」という旨のアンケートの協力を募ったところ、各学年の児童から様々な回答が多数寄せられ、さらなる興味関心の高まりを感じた。

【課題】

- ・ 知的学級だったため、生活単元学習の時間を活用して場の清掃などの事前準備や、活動後の画用紙の回収などの後片付けを行った。活動の時間配分は学級や児童の実態に応じた対応が必要。
- ・ 本学級の児童は特に問題なく活動できたが、こだわりの強い児童などがいた場合、児童の反応や行動などに配慮を有することも考えられる。
- ・ 今回の授業展開でできた様々な色の画用紙は、その後に他の題材でも活用できる。さらにどのように活用すればいいかを幅広く考えたい。

- 様々な学年や児童の実態に応じて、より幅広い活動展開が必要。今回は主に床を使った平面だが、高さも考慮して、より空間を意識させた活動にも発展させたい。
- 学校全体としての思いを大事にしながら、どのようにライトコートを変えていくかの詳細を練っていく必要がある。
- 他の学校でも気軽に実践ができるよう、他にどのような場所で今回のような取り組みができるか調査したい。
- 現在特別な支援の必要な児童が増える一方、家庭等での主な生活の場の中で、体験が少なかったり偏ったりしている児童が増えている。これからより一層、学校が児童の想像力や表現力を育む造形的な空間で在り続ける必要があるように試行錯誤していく必要がある。